

多様な文化財の修復技術に関する調査研究 (ホ06)

研究組織 建石徹、芳賀文絵、中村舞(以上、保存科学研究センター)、中山俊介(特任研究員)、荻田重賀(客員研究員)

目 的 近年多発する災害、水害や地震、火災によって被災した文化財、また、近代に制作された大型構造物や機械器具、工業製品などの文化財の保存修復処置は、その多様な材質、状態により、従来の方法のみでは対処できない可能性がある。本研究では、そのような多様な文化財に対する保存修復技術に関する新しい材料や技法について情報収集、調査及び開発を行う。これらの研究を通して、多様な文化財の特性や来歴を含め、次世代に適切に伝えていくための保存手法・保存活用、防災計画のあり方等を明らかにすることを目指している。

成 果

1. 被災文化財の保存修復技術に関する調査・研究

- 東日本大震災における被災資料保管環境管理について、宮城県の事例をもとに、施設タイプによる保存環境傾向について整理し、報告した。また、同じく被災資料の保存処置に関して、水損紙資料を中心としたレスキューから復旧までの事例を報告した。
- 津波、洪水被災をした紙資料からは、乾燥後も臭気が確認されることがあるが、その資料からの揮発成分、また臭気の軽減方法について検討を行った。まずは被災資料から揮発する成分について調査を実施した。
- 被災資料の応急処置方法の検証として、真空凍結乾燥機をはじめとした、水損紙資料の乾燥処置による資料への影響の検証を試みている。今年度は実験環境を整備するとともに、模擬試料を作成し処置を行った。併せて、東日本大震災での水損資料処置に携わる実務担当者との意見交換を行う等、情報収集を行った。(文化財防災センター連携)

2. 近代文化遺産の保存修復技術に関する調査・研究

- 近代文化遺産の活用に関する調査を行い、活用事例に関するアンケート調査結果について、報告を行った。
- 上記アンケート調査結果に基づき、各地の特徴ある活用を実施している国指定品を中心とした文化財の現地調査を実施した。
- 全国に所在する漆喰装飾の材料技法に関する現地調査を実施し中間報告としてまとめた。
- 航空資料の保存に関する調査を実施した。また、南九州市知覧特攻平和会館と協力し、陸軍四式戦闘機「疾風」(1446号機)をはじめとした近代文化遺産の保存、及び展示保管環境について検討を行った。
- 2019(令和元)年に発行した『コンクリート造建造物の保存と修復』の英語版を刊行した。

発 表

- 中村舞ほか：「産業遺産における活用－文化財の活用に関するアンケート調査結果－」産業遺産学会 21.11.27
- Toru Tateishi, et al.: The History of Japan's System for the Protection of Cultural Properties and Fire, Disaster and Crime Prevention Measures for Museums, Temples and Shrines, ICCROM, "PREVENT: Building Capacities for Mitigating Fire Risk at Heritage Places", 21.11.26(文化財防災センター連携)
- 芳賀文絵ほか：「宮城県における被災資料の保管環境管理について」第43回文化財保存修復学会大会 紙上開催 21.7.15
- 森谷朱ほか：「宮城県における被災資料の保全活動について」第43回文化財保存修復学会大会 紙上開催 21.7.15
- 芳賀文絵：被災文化財の保存と活用－東北歴史博物館における文化財保存の取り組み－ 東京文化財研究所令和3年度第2回総合研究会 東京文化財研究所 21.9.1

刊行物

- 『Conservation and Restoration of Concrete Structures』21.8